

複数の資料から情報を読み取る

問題

佐藤さんは、夏休みの自由研究で藍について調べたことをポスターにまとめています。佐藤さんがポスターを作成するために集めた【情報カードの一部】と【ポスターの一部】を読んで、あとの問いに答えなさい。

【情報カードの一部】

A タデアイという植物から作る染料を「すくも」といい、徳島ではこれを「阿波藍」という。藍の種まき「藍まく」は三月に行われ、つゆ明けを待って刈り取られる。「藍刈る」である。その後、かんそう、裁断され、葉と茎に選別される「藍こなし」という工程に入る。九月、「寝床(ねとこ)」に藍は移され、一メートルほどの高さに積み上げられる。「寝せ込み」である。五日ごとに水を打ち、「切り返し」の作業を続け、はっこうをさせる。そして、十二月に「すくも」は完成する。

B 阿波藍が栄えたのは、江戸時代。阿波はんしゆの保護を受け、技術改良がくり返されて品質が向上していったからだ。また、大阪周辺で綿がさいばいされ、綿とよく合う藍染料が必要とされたことも栄えた理由といわれている。また、吉野川が運ぶ豊かな土が、藍作に適していたということも発展の理由といえる。

C

藍刈るや一里四方に木も見えず

正岡子規

この俳句は、正岡子規が当時住んでいた東京から、ふるさとの松山へ帰る途中、徳島で藍を刈る様子を見てよんだのではないかといわれている。

時代を生きぬき，受け継がれる阿波藍

① 阿波藍「すくも」とは

タデアイというタデ科の植物から作る染料を「すくも」という。徳島では，伝統的技法で作られた天然藍「すくも」を「阿波藍」と呼んでいる。

② 今に受け継がれるすくも作りの工程

月	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12
工程名	ア		イ			ウ		エ		すくも完成

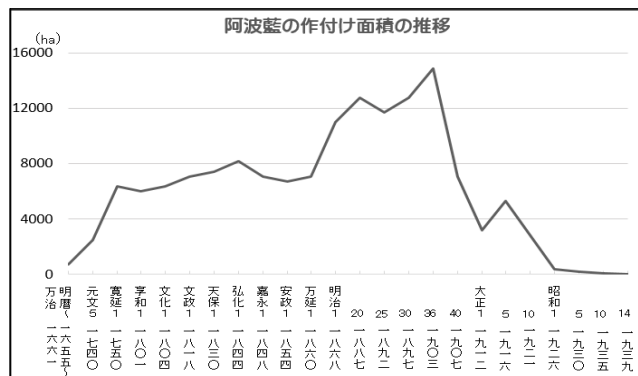
③ 阿波藍のはん栄とその理由

阿波藍の製造は江戸時代から明治時代にかけて増加する。

- ・ から。
- ・ 綿と合う藍染料が必要とされたから。
- ・ 藍を育てる吉野川の豊かな土があったから。

④ 阿波藍の生産激減とその理由

1903年をピークに阿波藍のさいばいは急激に減少する。その理由は，安価なインド藍とヨーロッパの合成藍の輸入増加によるものである。



徳島県立文書館の展示資料より作成

⑤ 藍作りを守り続ける人たち

「すくも」を作る職人は「藍師」と呼ばれる。現在，流通する「すくも」を作る藍師は五人のみ。しかし，学校で藍を育てる子どもたち，藍さいばいから染めまで手探りで試みている家族や，藍師の下で修行する二十代の若者もいる。

一 【ポスターの一部】②は、【情報カードの一部】のAをもとにした藍作の作業工程表である。 ウに当てはまる
工程名を次の1から4の中から一つ選びなさい。

- 1 藍刈る
- 2 寝せ込み
- 3 藍こなし
- 4 藍まく

二 佐藤さんは、【情報カードの一部】をもとに【ポスターの一部】③の阿波藍のはん染とその理由を書きました。
オに適する理由を「から。」に続く形で十字以上、二十字以内で書きなさい。

三 佐藤さんは、【ポスターの一部】で「阿波藍の作付け面積の推移」を、どのような目的で用いていますか。その説明として最も適切なものを、次の1から4の中から一つ選びなさい。

- 1 数値を年代ごとにグラフで示し、大きな変化に注目させるため。
- 2 数値を年代ごとにグラフで示し、ゆるやかな変化に着目させるため。
- 3 数値を年代ごとにグラフで示し、変化のおおまかな特徴を伝えるため。
- 4 数値を年代ごとにグラフで示し、一定に変化していることに気づかせるため。

四 佐藤さんは、【情報カードの一部】Cにある俳句を、【ポスターの一部】の①から⑤の小見出しを支える根拠の一つとして入れようと考えています。②から⑤のまとまりのうち、どこかのまとまりの後ろに入れるとよいか、②から⑤の中から最も適切なものを一つ選びなさい。

解答用紙

四	三	二		一
のまとまりの後ろ				
		から。		

正答

一 3

二 (例) 技術改良をくり返し品質が向上した(から。)

三 1

四 ③ (のまとまりの後ろ)